

◎ 1 時間目の授業

(1) 目標

情報と自分とのかかわりを考え、学習の見通しをもつ。

(2) 展開

過程	学習活動	○ 指導・支援 ※ 評価
導 入	<p>1 情報を得るとき、自分がどのような立場であるか考え、学習の意義を認識する。</p> <p>2 社会調査が身近にある情報の一つであることを認識する。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">めあて： 社会調査で起こりがちな「ズレ」を知り、学習のゴールを明確にしよう。</div>	<p>○今回は、中国で起きた「段ボール入り肉まん」についての新聞記事と、その訂正記事を取り上げ、自分がその情報にどのような感想を持ったかを振り返らせる。</p> <p>○自由に意見を出させることで、情報に接する際の立場を意識させるようにする。</p> <p>○教材文の冒頭部分を社会調査の定義とする。 →「アンケートなどの社会調査は、世の中の実態や人々の意見を把握することを目的とする。」</p> <p>○単元のめあてを知らせ、学習の見通しをもたせる。</p>
展 開	<p>4 本文を通読し、題名の中の「うそ」という言葉が適切か検討する。また、筆者が「うそ」という言葉を使った意図を考える。</p> <p>5 「ズレ」をできるだけ無くすため、「社会調査を行う側」と「社会調査から情報を得る側」のそれぞれが気を付けるべきことをまとめる。</p> <p>6 社会調査に「ズレ」があることをとらえた上で、学習のゴールを知る。</p>	<p>○筆者が社会調査の何について言おうとしているのかに注意しながら本文を読むよう指示する。</p> <p>○「ズレ」という言葉に着目させ、次時の学習で筆者が根拠として例示した3つの社会調査の「ズレ」を分析させることを伝える。</p> <p>○「社会調査を行う側」→「『事実』は何かを客観的に認識すること」 「社会調査から情報を得る側」→「完璧なものなどあり得ないという視点をもつこと」</p> <p>○再度、授業冒頭での内容を振り返らせ、教材の内容が身近なものであることを押さえる。</p> <p>○学習のゴールとして、今後どのようなことに留意しながら情報と向き合っていくかを具体的に考えることを告げる。 ※ 学習のゴールを理解している。【観察】</p>
終 末	<p>7 次時の学習内容を知る。</p>	<p>○筆者の主張の根拠としてあげた3つの例について、そのズレと調査の改善点を考えることを告げる。</p>